

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [傾聴](#) | [傾聴のすゝめ \(その4\)](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[社会保障](#)[労使トラブル法律相談Q&A](#)[労働関係法](#)[経営全般](#)[人間関係とコミュニケーション](#)[ライフプラン](#)[男女共同参画](#)[公務員関係法](#)[日朝の歴史](#)[7つの習慣](#)[中東の歴史](#)[ボランティア活動](#)[環境活動](#)[社会貢献活動](#)[自己啓発](#)[生涯学習](#)[外交・防衛問題](#)[資本論](#)[教育カリキュラム](#)[日本国憲法](#)

傾聴のすゝめ (その4)

「最高の傾聴」とは何か？

カウンセリングの主要理論の一つであるロジャーズの「クライアント中心療法」では、3つの態度を重要であると指導している。

(1) 無条件の積極的関心 (受容)

カウンセラーがクライアントを無条件に「ああ…こんな気持ちがあるんですね…」と、「ただそのまま受けとめていく」こと。

カウンセラーの価値観によって、「この部分は大切、この部分はそうでもない」などと取捨選択せずに、クライアントが表現した気持ちの「どの部分も」きちんと大切に回答していく態度のこと。

「あなたのなかには〇〇な気持ちもあって、けれども同時になんだかそうとも言えない気持ちもあるんだね」という具合に返す。

実践的には、カウンセラーが自分の心の中に「空間」をつくり、その「空間」のなかを、クライアントに自由に漂ってもらい、カウンセラーも一緒に漂っているような心の姿勢を保つ。

(2) 共感的理解

クライアントの私的な世界を、その微妙なニュアンスに至るまで、あたかもその人自身になったかのような姿勢で…つまり、その人と同じ価値観やものの見方、考え方、感じ方をしているようなつもりで、その人の心の世界をその人自身の心の内側から…感じ取り、そこで感じ取ったことをていねいに相手に「伝え返していく」こと。

クライアントの感じているまさにその同じ次元にふみとどまりながら、クライアント自身の内側に身を置きつつ、「確かめつつ、確かめつつ、ともに歩んでいくような姿勢」で聴いていくこと。

(3) 一致

カウンセラーは

①自分の心を「空」にして、そのスペースをクライアントに自由に漂ってもらいながら、クライアント自身の心の内側に立って心のひだをていねいに聴くと同時に

②カウンセラー自身の心の深いところで発せられてくるさまざまな声や心の動きにていねいに意識を向けて耳を澄ませていく、この二つの作業を同時進行で行っていく。

カウンセラーが、クライアントの話に虚心に耳を傾けながらも、同時に、自分自身の内側にも深く、やさしく、ていねいに、ふれながら、ふれながらしつつ、クライアントとともに進んでいく姿勢を保つことができていると、クライアントのほうも安心して自分の内側にふれて、そのなかに深く入っていくことができる。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

[>>一覧へ戻る](#)

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🗺️ サイトマップ 📄 このサイトについて 🛡️ 個人情報保護の取組みについて

🏠 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.